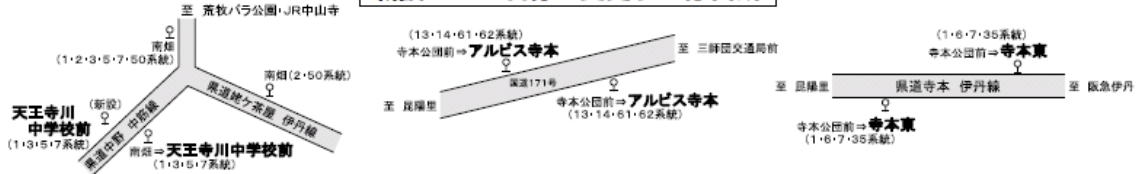


新設系統・運行経路が変更となる系統

系統番号	系統名	運行経路の変更内容・新設路線内容 ※運行経路の→は復路のみの運行、⇄は往路・復路とも運行	のりば
6	JR小井内池尻線 新設	池尻発小井内経由JR伊丹行の系統新設(復路のみ) 池尻→池尻南口→昆陽里→寺本東(寺本公園前)→小井内→礼場辻→千僧口→阪急伊丹→伊丹シティホテル前→JR伊丹	(復:池尻発JR伊丹行き) 阪急伊丹・9番のりば
16	JR松ヶ丘中野大橋線 新設	中野大橋発礼場辻経由JR伊丹行の系統新設(復路のみ) 中野大橋→松ヶ丘→住友北→伊丹病院住友前→昆陽里→礼場辻→千僧口→阪急伊丹→伊丹シティホテル前→JR伊丹	(復:中野大橋発JR伊丹行き) 阪急伊丹・9番のりば
30	伊丹三師団線 新設	阪急伊丹～北村～北三菱～三師団・交通局前の新設 阪急伊丹⇄伊丹シティホテル前⇄JR伊丹⇄北ノ口⇄卸売市場前⇄辻村⇄北村西口⇄北村⇄坂ノ下⇄泉高前⇄総監部前⇄瑞ヶ池⇄北三菱(阪急伊丹行きのみ)⇄瑞原1丁目⇄瑞ヶ丘⇄三師団・交通局前	(往:阪急伊丹発三師団交通局前行き)阪急伊丹・5番のりば、JR伊丹・6番のりば (復:三師団交通局前発阪急伊丹行き)JR伊丹・5番のりば、阪急伊丹・ターミナル内路車場
33	塚口堀池団地JR線 新設	塚口堀池団地伊丹線(34系統)の一部をJR伊丹まで延伸 塚口⇄塚口町1丁目⇄尼崎北高校前(塚口行きのみ)⇄塚口町5丁目⇄塚口町6丁目⇄尼崎北小学校前⇄北町⇄近畿中央病院前⇄車塚⇄野間口⇄野間東⇄堀池西⇄堀池団地⇄泉陽小学校前⇄小井内⇄礼場辻⇄千僧口⇄阪急伊丹⇄伊丹シティホテル前⇄JR伊丹	(往:塚口発JR伊丹行き)塚口1番のりば、阪急伊丹・9番のりば (復:JR伊丹発塚口行き) JR伊丹・5番のりば、阪急伊丹・5番のりば
52	JR荻野中山寺線 新設	荻野鶴田団地線(51系統)の一部をJR中山寺まで延伸 JR伊丹⇄伊丹シティホテル前⇄阪急伊丹⇄清水塚⇄春日丘⇄春日西⇄大東(JR中山寺行きのみ)⇄塚丘小学校前⇄瑞穂小学校前⇄松ヶ丘2丁目⇄総監部前⇄瑞ヶ池⇄東野⇄東野⇄大野⇄荻野⇄荻野北⇄堀池団地⇄荒牧バラ公園⇄大阪芸術大学短期大学部前⇄荒牧北⇄JR中山寺	(往:JR伊丹発JR中山寺行き) JR伊丹・1番のりば、阪急伊丹・1番のりば (復:JR中山寺発JR伊丹行き) 阪急伊丹・9番のりば
8	JR桜ヶ丘池線 廃止	2系統JR桜ヶ丘荒牧バラ公園線の充実のため	
12	JR昆陽里小井内線 廃止	6系統JR小井内池尻線の新設のため	
52	JR伊丹坂北三菱線 廃止	51系統JR荻野鶴田団地線の充実のため	

新設および名称を変更する停留所



グリーン経営に取り組んでいます

環境問題がますます深刻化する中で、市営バス事業が公営企業として成長発展していくためには、営利性の追求と同時に、環境保全を企業の社会的責任としてとらえ、企業活動における環境負荷の削減を図っていくことが不可欠となってきています。こうした背景の中、企業活動のなかに環境保全への配慮を組み入れ、営利性の追求と環境配慮の両立を図っていくことを経営のグリーン化と呼び、自主的・計画的に環境対策を進めながら、経営面での向上を図っていく経営をグリーン経営(環境貢献型経営)と言います。

交通局では、交通エコロジー・モビリティ財団がSO14000シリーズ(環境マネジメントシステムに関する国際規格)に基づき作成したグリーン経営推進マニュアルを活用し、環境保全への取り組みを進めています。「環境保全のための仕組み・体制の整備」「エコドライブの実施」「低公害車の導入」などの分野について一定レベル以上の取り組みがなされた事業者に対して、同財団が審査の上、グリーン経営の認証・登録を行います。

認証取得2年後の効果の検証では、「燃費の向上」、「交通事故・車両事故の削減」、「職場のモラルや士気の向上」に加え、「社会的評価の向上」につながっていくことなどが報告されています。交通局ではこれまで、アイドリングストップの励行、エコドライブによる燃費の改善、車両の入念な整備などに努めていますが、今後さらにこれらの取り組みを進め、環境に配慮した事業運営に努めていきます。

考えてみませんか

環境のこと、まちのこと

日本の自動車保有台数は5800万台を超え(2009年10月末現在)、国民の2人に1人は自動車を持っているという計算になります。自動車は便利な移動手段として私たちの生活になくてはならないものですが、過度の自動車の利用は、道路渋滞を招いたり、大気汚染や交通事故の多発を生むなど環境面、安全面で大きな問題となっています。

クルマの交通量が減ると道路渋滞が緩和され、排気ガスによる大気汚染も減少し、二酸化炭素(CO₂)の削減にもつながるため、地球温暖化の防止にも役立ち、交通事故も減らすことができます。国土交通省によると、バスの輸送量当たりの二酸化炭素の排出量は、自動車に比べ

て1/3以下という数値になっており、環境にやさしい乗り物と言えます。バスや電車などの公共交通機関をかしこく使っていただければ、環境や安全を守ることにつながります。

そのため交通局では、一人一人の移動(モビリティ)を自家用車の利用から公共交通の利用へと自発的な転換を促す、モビリティ・マネジメント(Mobility Management)活動を推進しています。

具体的な取り組みとして市営バスの系統図を分かりやすくデザインした市営バスマップ・時刻表を作成し、市民課窓口を通じ、輸入されてきた市民の皆さまへお渡ししているほか、新築マンションのマンションギャラリーや管理組合などに配布をお願いすることなどにより、新しい生活を始める人に、または始めようとしている人に、車利用を習慣化する前に、適切に情報を提供し、公共交通の利用を促す活動を行っています。また、21年度には地域公共交通の歴史や、公共交通が環境や社会に与える影響を学ぶ岡小学校の総合学習において、市営バスをテーマにした授業を行い、子どもたちに公共交通への関心を持ってもらうような活動や(関連記事4面)、サービス助士の資格を持った職員による子ども向けの出前講座なども計画しています。また、中心市街地で行われる各種イベントとも連携し、市営バスへの利用転換に取り組んでいきます。

次代につなげる「環境・まち」を守っていくためにも、「人にやさしい、まちにやさしい、市営バス」をぜひご利用ください。

輸送量当たりの二酸化炭素排出量(2007年)

